

高齢者の食家事に関する動作分析：男女差に着目して

Motion Analysis of Meal Preparation by the Elderly: Focusing on Gender Difference

M20海人9

派遣先 第24回国際家政学会 (IFHE) 世界大会 (アメリカ・アトランタ)

期間 2022年9月6日～2022年9月11日 (6日間)

申請者 お茶の水女子大学 ジェンダード・イノベーション研究所

特任リサーチフェロー 山本 咲子

海外における研究活動状況

研究目的

健康寿命の延伸のためには、食生活の自立が重要である。本研究では、食生活の前提となる食家事労働、特に調理行動に着目し、高齢者の食家事労働への関わり方の実態の解明と、自分が食べたいものを自分で作ることを可能にする方策を追求することが目的である。

海外における研究活動報告

今回参加した第24回国際家政学会 (IFHE) 世界大会は、世界中から多くの家政学を専門とする研究者が集まる大規模な学会である。研究内容を発表し、海外の研究者から有意義な指摘を受けて、更に研究を進展させることが本研究活動の目的である。

日本は世界一の高齢社会である。2007年に超高齢社会に突入し、今後も高齢化は進行し続けると予想されている。世界一の高齢社会である日本が抱える問題や、それへの対応策を国際学会で発表することは、高齢化問題を抱えた他国の研究者や、高齢者の生活支援に携わる人々に対して有意義な知見を提供できる。高齢者の問題は世界的にも関心の高いテーマであり、本研究に関心を持つ海外の研究者

との交流関係を築くことも目的とした。

第24回国際家政学会 (IFHE) 世界大会は、SDGsに家政学がどのような貢献ができるかを示す機会として設定され、大会テーマは「Home Economics: Soaring Toward Sustainable Development (家政学：持続可能な開発に向けた更なる飛翔)」であった。研究報告セッションは、「Human & Political Systems」「Food Systems」「Health Systems」「Economic Systems」「Environmental Systems」に分かれており、申請者は「Food Systems: Systemic Contributions to Food Security」で口頭発表を行った。

申請者の報告タイトルは「Motion Analysis of Meal Preparation by the Elderly: Focusing on Gender Difference (高齢者の食家事に関する動作分析：男女差に着目して)」である。健康寿命の延伸のためには、食生活の自立が重要である。本研究の目的は、食生活の前提となる食家事労働、特に調理行動に着目し、高齢者の食家事への関わり方の実態の解明と、自分が食べたいものを自分で作ることを可能にする方策を追求することである。

本報告は、高齢期の食家事労働における困りごとを、男女比較の視点から明らかにすることを目的とし、70歳以上の高齢者男女400名を対象としたアンケート調査の分析結果を報告

した。どのような調理動作が「大変」「面倒」と感じるかは、男女で大きな違いがあることが明らかとなった。男性は、料理の準備から加熱、片付けに至るまで、全体的に困難さを抱えていたため、男性に対しては、調理の全体的な支援が必要である。一方、女性は、多くの調理動作は困難なく行えるが、「瓶のふたを開ける」「水の入った鍋を持ち上げる」といった力を使う動作に困難さを抱えていることが明らかになった。よって、女性に対しては、力を使用する動作の支援は有効であるが、過剰な支援によって高齢女性が有する生活能力を奪わないように注意する必要があることを指摘した。本調査の結果より、高齢者のできることとできないことを見極め、生活能力を持続できるような支援の必要性、ジェンダーセンシティブな食家事支援の必要性を提示した。

世界に先駆けて高齢化が進む日本における高齢者の食家事労働の問題は、海外の研究者にとっても興味深い内容であったようで、質疑応答では多くの質問を受け、活発な議論、交流ができた。今回の口頭発表に得たオーディエンスからの質問や指摘を参考にし、本研究内容を国際家政学会誌へ論文投稿することが

今後の目標である。

申請者が口頭発表した研究報告セッションでは、申請者以外にも、Kathryn Carroll氏とRachel Schichtl氏(アメリカ)の「Factors Influencing Food Insecurity Empathy: The Role of Service-Learning (食料不安への共感に影響を与える要因：サービス・ラーニングの役割)」とNwakpadolu氏(ナイジェリア)の「Promoters and Inhibitors of Teaching Sustainable Food Consumption by Nigerian Home Economics Teachers (ナイジェリア人家庭科教師による持続可能な食品消費の指導の推進要因と阻害要因)」が報告された。食の安全保障をテーマに、日本、アメリカ、ナイジェリアの各国が抱える特有の課題に対して、活発な議論により各々の問題意識を共有できたことが有意義であった。

**この派遣の研究成果等を発表した
著書、論文、報告書の書名・講演題目**

[講演演目(発表課題名)]

Motion Analysis of Meal Preparation by the Elderly:
Focusing on Gender Difference

(高齢者の食家事に関する動作分析：男女差に着目して)